

咲かそうのち

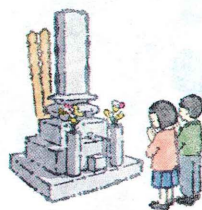
日蓮大聖人の教えを正しく伝える法華宗



お盆はご先祖様をお迎えして共に過ごす特別な期間です。

地域、家庭によって供養の在り方はさまざまですが、「今は亡きご先祖様と今を生かしていただいている私たちが共に過ごす」という意味には違いはありません。

最近ではお盆の大型連休を利用してリフレッシュ旅行する光景が見られますが、「お盆休み」だからこそお墓参りやお仏壇に手を合わせて大切なひと時をお過ごしください。



Q お盆のお飾りに鬼灯が使われているのはなぜですか？

A 鬼灯はふつくと膨らんだ形と色から盆提灯ぼんちようどんのようにみえます。

ご先祖様が帰って来られる時の目印になるようにという意味があります。他にも、ふつくとした鬼灯の中に、ご先祖様の魂が宿るという意味もあるようです。

Q この記事を見て「もう手遅れだ」と感じています。

A 大丈夫です。私たち法華宗の教えは「常盆常彼岸」と言っており、常にお盆やお彼岸の気持ちで供養をします。何よりも大切なことは「亡き方々を想う気持ち」です。今からでも遅くありません。



“知っているようで知らない” お盆にまつわるQ&A

Q お盆になるとお仏壇の前に作られる棚たなにはどんな意味があるのですか？

A 精霊棚しょうりやうだなと言って地域や家庭によってさまざまですが、ご先祖様を迎えるために位牌を安置し様々なお供えをする棚です。

Q 精霊棚や、お仏壇の前に机を置いて真孤まも（ごご）を数くのはなぜですか？

A お釈迦様が真孤の上で病人を治療したという伝えがあり、「邪気を払う」「聖域を形作る」という意味があります。

Q キュウリやナス、蓴ももを使って馬や牛をお供えするのはなぜですか？
ご先祖様が馬に乗って早くこの世に帰り、牛に乗ってゆっくりとあの世に戻っていたくという意味があります。

お盆は一年の内でも特別にご先祖様を近くに感じられる期間ではないでしょうか。迎え火、送り火、たくさんのお供え物など様々な供養があります。それぞれの地域、ご家庭のおもてなしでご先祖様をお迎えください。

